

令和6年度 第2回藤沢市立学校通学区域検討員会 資料1



1.南北ワークショップの開催結果について(報告)

ファシリテーター 徳田太郎氏(日本ファシリテーション協会フェロー)

運営 教育総務課及びインターンシップ学生(第2回のみ)



- 第1回 南部 7月10日(水)参加者49人
北部 7月26日(金)参加者15人
 - ・ワークショップの開催目的・開催に至る背景等の説明
 - ・子どもの学び・育ちに関して学校規模・通学距離において問題であると思うことについて話し合いを実施
- 第2回 南部 9月 6日(金)参加者44人
北部 9月27日(金)参加者11人
 - ・通学区域見直しのポイントを考え、優先順位付けを実施
 - ・通学区域見直し案作成の際の前提になる考え方について説明

ワークショップで示された通学区域見直しで考慮すべき点（上位5点）

【南部】

- 1 通学距離（時間）・通学の安全性を考慮する
- 2 学びの平等性を最優先に考える
- 3 自治会・町内会の区域を分断しないように考慮する
- 4 将来を見据えて今を考える 計画性をもって企画する
- 5 慣例学区から過大規模校への転入は控えるという方針を立てる

【北部】

- 1 通学距離（時間）・通学の安全性を考慮する
- 2 自治会・町内会の区域を分断しないように考慮する
- 3 自宅から一番近い学校に通えるようにする
- 4 境界を明確にするため、幹線道路・鉄道・河川・町丁目等で分ける
- 5 13地区の行政区割りについて考慮する



※黒＝「藤沢市立学校適正規模・適正配置第1期実施計画」で通学区域見直しの際に、考慮しているポイント
青＝第2回ワークショップで新たに追加されたポイント

2.アンケート結果(報告)



(1) 学校教職員向けアンケート

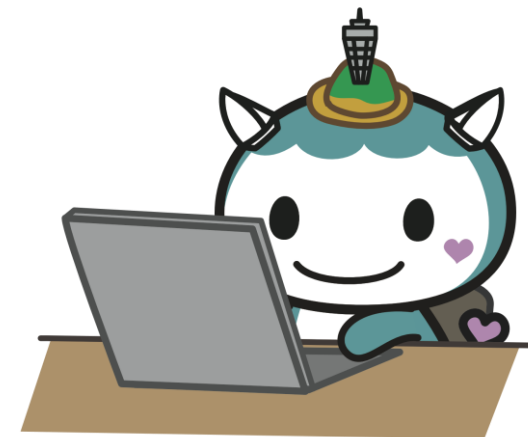
【アンケート概要】

実施期間:2024年10月15日(火)から11月5日(火)まで 3週間

対象者:通学区域見直し対象校(合計22校)の学校教職員(任意回答・無記名)

南部	
藤沢小学校	高砂小学校
明治小学校	鵜南小学校
鵜沼小学校	浜見小学校
本町小学校	羽鳥小学校
村岡小学校	新林小学校
辻堂小学校	大鋸小学校
鵜洋小学校	高谷小学校
片瀬小学校	(17校)
大道小学校	
八松小学校	

北部
六会小学校
富士見台小学校
湘南台小学校
亀井野小学校
天神小学校
(5校)



回答者数:54人

【問1】 あなたが現在、所属している小学校の学区や通学路について、地域の方や保護者からの声を含め、あなたが気になっていることがあれば、具体的にお知らせください。（自由記述）

分類	内容	件数	割合
学区に関すること	学区が広く遠い	5	14%
	飛び地の学区が多い ★	4	11%
	慣例学区はわかりづらい ★	3	8%
	線路を越えない学区がいい ★	2	6%
	学区に対する学校の位置が悪い	2	6%
	学区の形状上、他校の学区を通るのを解消したい	1	3%
小計		17	47%
教室不足に関すること	教室が足りない ★	5	14%
小計		5	14%
通学路や安全性に関すること	道が狭く危険	7	19%
	駅前の通学が不安	1	3%
	その他	1	3%
小計		9	25%
その他	地域との連携の強化	2	6%
	グリーンベルト設置希望	1	3%
	災害時の下校の心配	1	3%
	その他	1	3%
小計		5	14%
全体		36	100%



★学区見直し案作成の際の【基本的な考え方】に反映

【問2】 あなたが現在、所属している小学校の新たな学区や通学路の設定について、反映させてほしい案があれば、詳細がわかるように具体的にお知らせください。（自由記述）



分類	内容	件数	割合
学区変更に関すること	具体的エリアや学区の広さの提案	4	24%
	線路で学区を分けること★	3	18%
	飛び地の解消★	3	18%
小計		10	59%
学校の設備や教室不足に関すること	各学校の教室数を考慮すること★	2	12%
	施設整備の推進	2	12%
小計		4	24%
その他	歩行者の安全を守ること	1	6%
	その他	2	12%
小計		3	18%
全体		17	100%

★学区見直し案作成の際の【基本的な考え方】に反映

(2) 児童向けアンケート（中間報告）

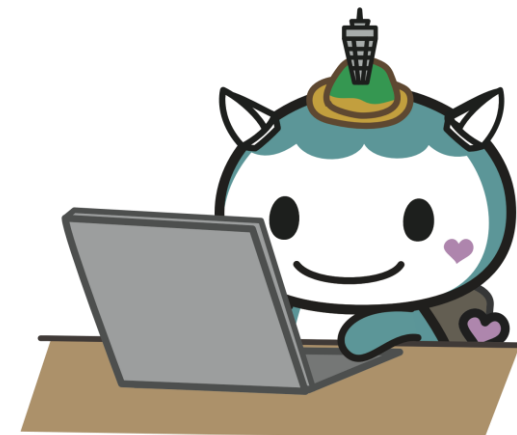
【アンケート概要】

実施期間：2024年11月5日（火）から11月29日（金）まで 約3週間

対象者：通学区域見直し対象校（合計22校）の6年生児童（任意回答・無記名）

南部	
藤沢小学校	高砂小学校
明治小学校	鵜南小学校
鵜沼小学校	浜見小学校
本町小学校	羽鳥小学校
村岡小学校	新林小学校
辻堂小学校	大鋸小学校
鵜洋小学校	高谷小学校
片瀬小学校	(17校)
大道小学校	
八松小学校	

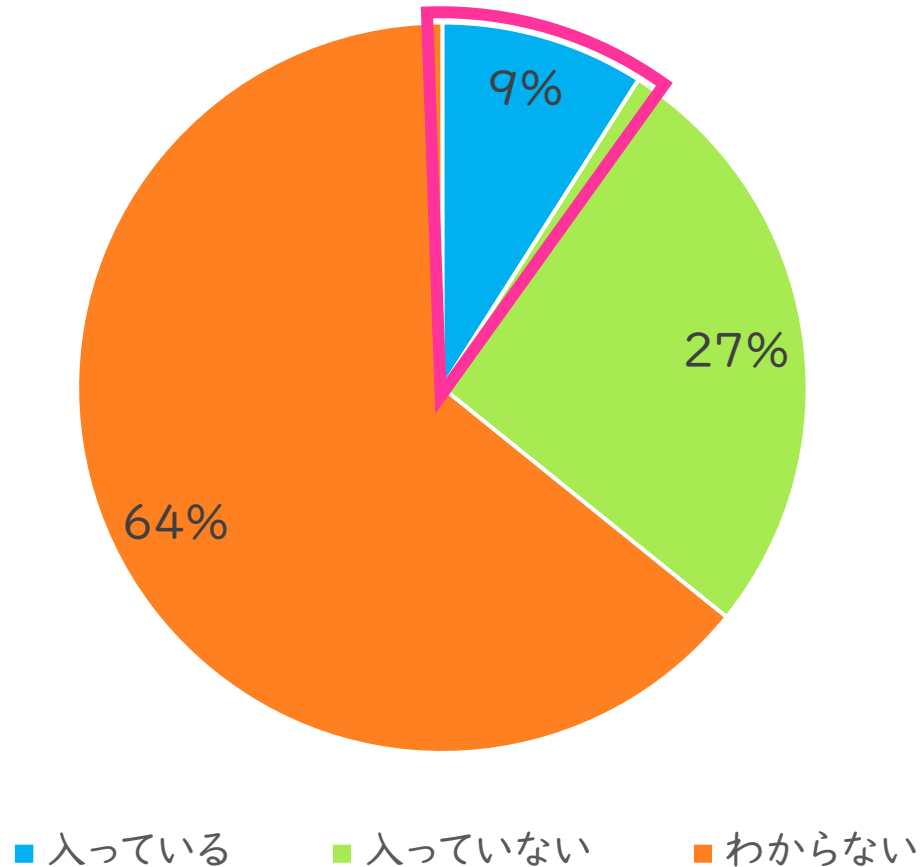
北部
六会小学校
富士見台小学校
湘南台小学校
亀井野小学校
天神小学校
(5校)



回答者数：997人（11月15日現在）

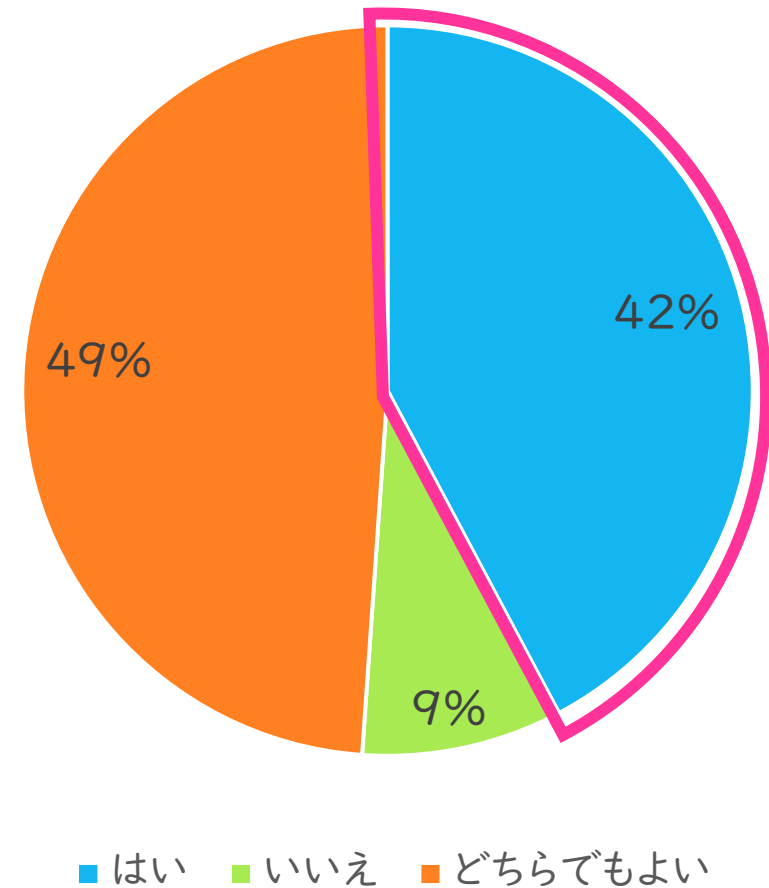
【問1】

あなたは地域の「子ども会」に入っていますか。



【問1-1】

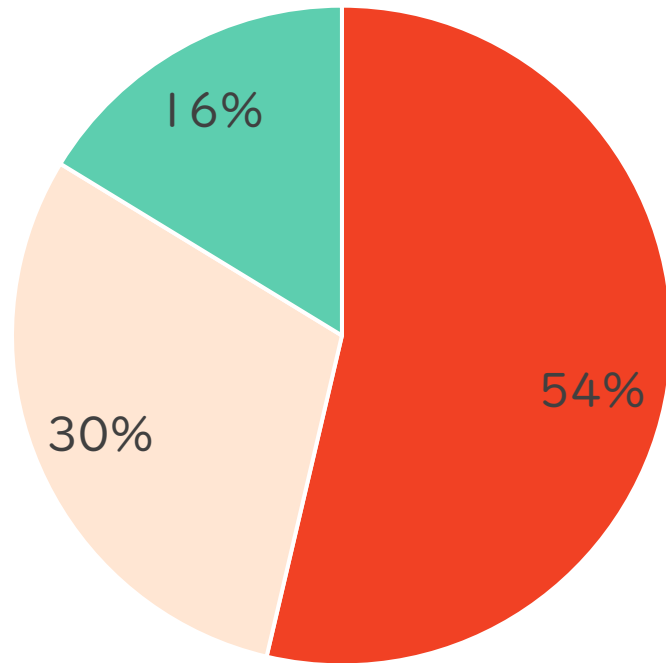
子ども会に入っている場合、あなたは同じ「子ども会」の人と同じ学校に通いたいと思いますか。



考察: 同じ子ども会の人と同じ学校に通いたいと思う児童は全体の3.8%である。

【問2】

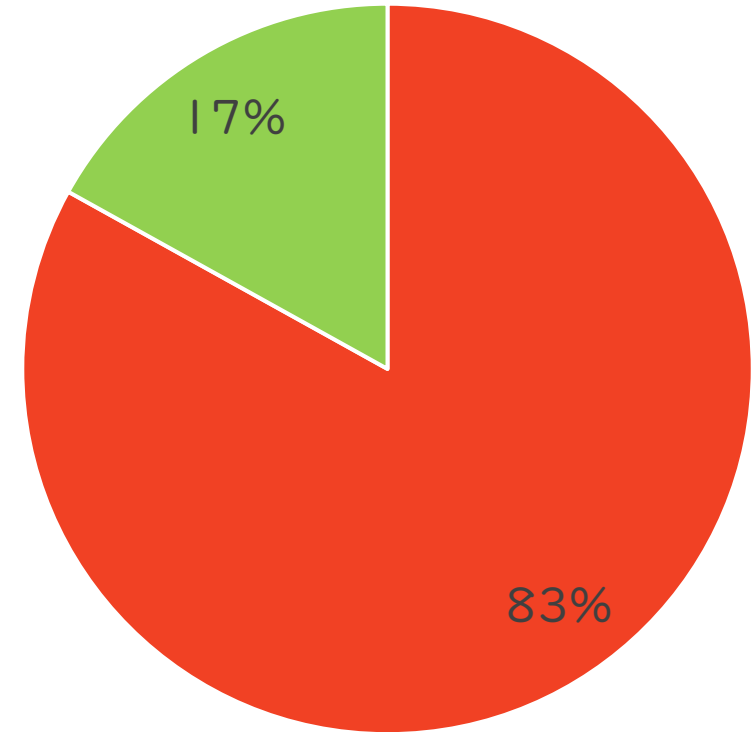
あなたは学校を会場とした地域の行事（地区レクやお祭りなど）に参加するとしたら、どの学校で開催する行事に参加したいですか。



- 自分の学校が会場の行事に参加したい
- どの学校で開催するかは気にしないで参加したい
- どれも当てはまらない

【問3】

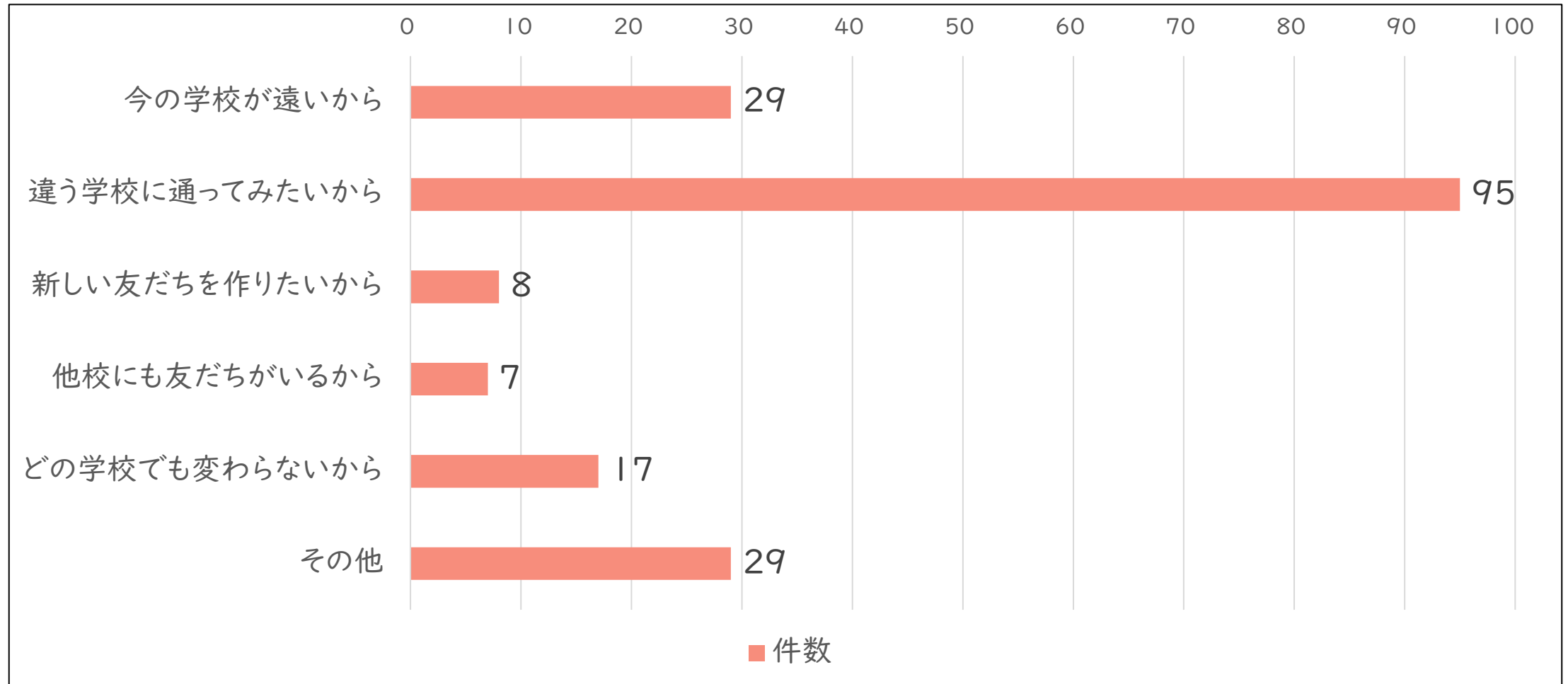
新しい学校が決まった結果、もしも違う学校に通うことになるとしたら、あなたはと思いますか。



- 通う学校は今のままが良い
- 通う学校が変わってもいい

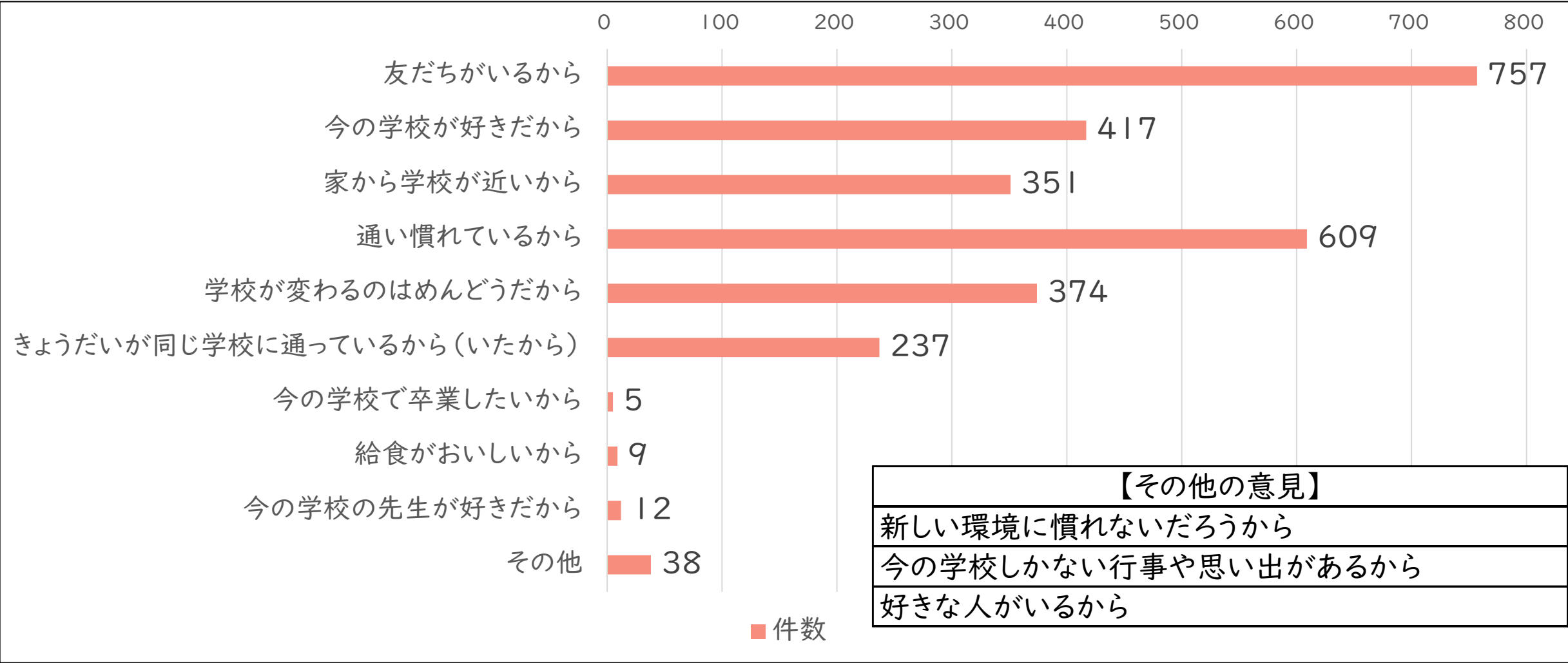
【問3-1】

通う学校が変わってもいいと思うのはなぜですか。(複数選択可)



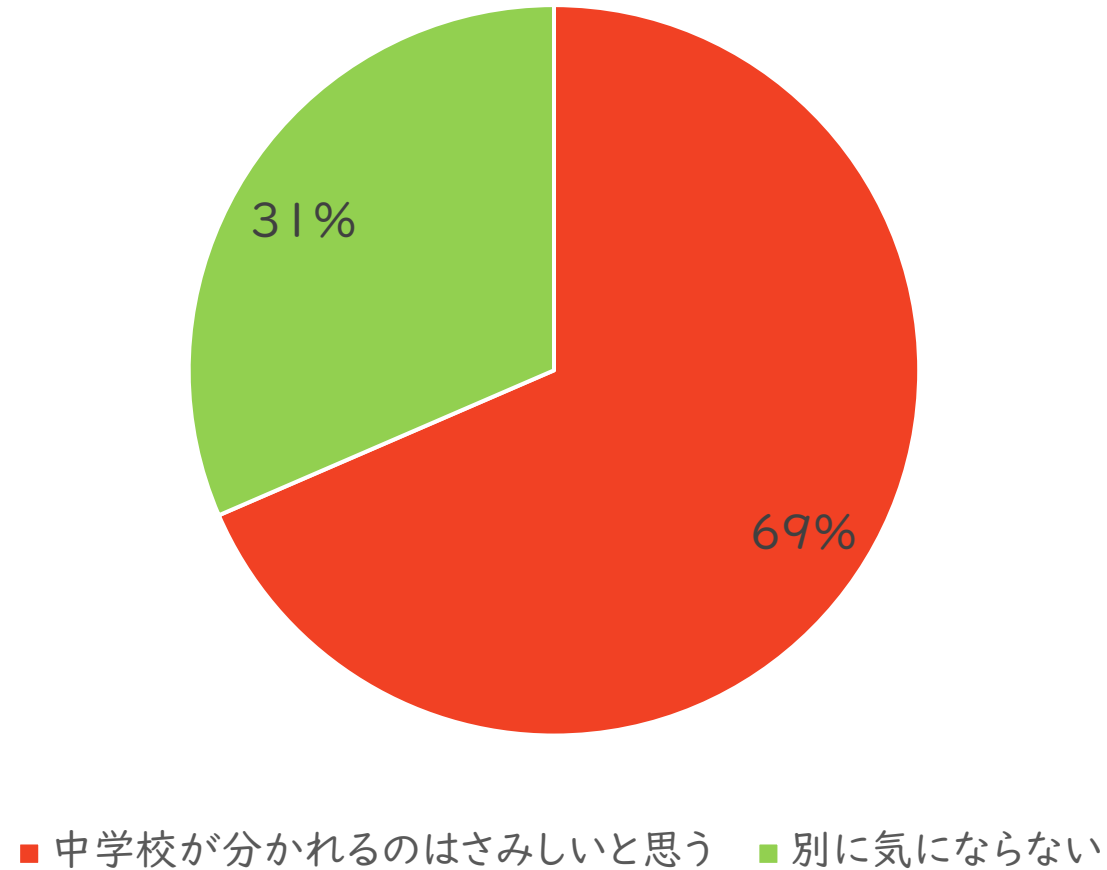
【問3-2】

今の学校のままだいいと思うのはなぜですか。(複数選択可)



【問4】

あなたは今の小学校から進学する中学校が2校以上に分かれることはどう思いますか。



3. 通学区域の見直し案作成に当たり前提とした考え方について



■ 最優先事項

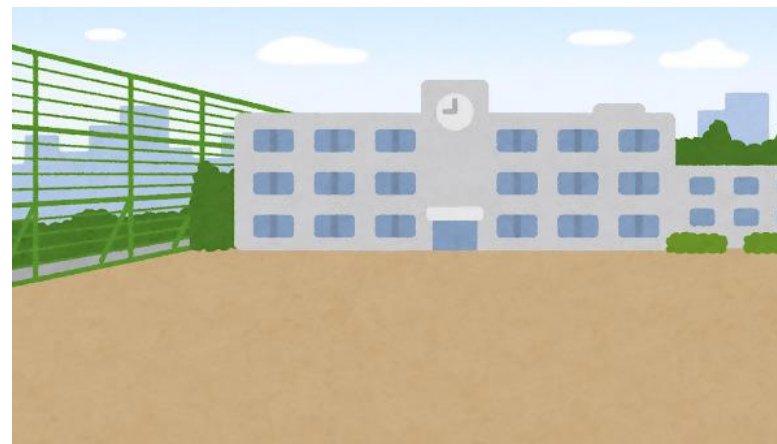
2040年時点における過大規模校の解消

取組対象校

【南部】 鵜沼小学校、辻堂小学校、鵜洋小学校、八松小学校

【北部】 六会小学校

※それ以外の学校においても、通学区域の変更により過大規模となることのないよう考慮する



■ 基本的な考え方

現在の通学区をベースとし、次の目的で線を引き直す

- ・過大規模を解消する（取組対象校 5校における児童数の削減）
- ・慣例学区を廃止する ★

線を引き直しは必要最低限とする

線を引き直しに当たっては、次の点を考慮する

- ・通学路の安全性（線路 ★、幹線道路、河川等）
- ・自治会町内会の境
- ・通学時間・通学距離 ★
- ・学校の施設規模 ★
- ・学区の「飛び地」の解消 ★

★学校教職員アンケート結果を反映したもの

■ 2040年時点における人口分布についての考え方

(1) 2024年において、特定の小学校区に居住している0～5歳の人口と実施計画における当該小学校の児童数とを比較し、増減率を求める



(2) 2024年における0～5歳児については、それぞれ1人につき当該増減率を乗じた人数が2040年時点での人数であると仮定する

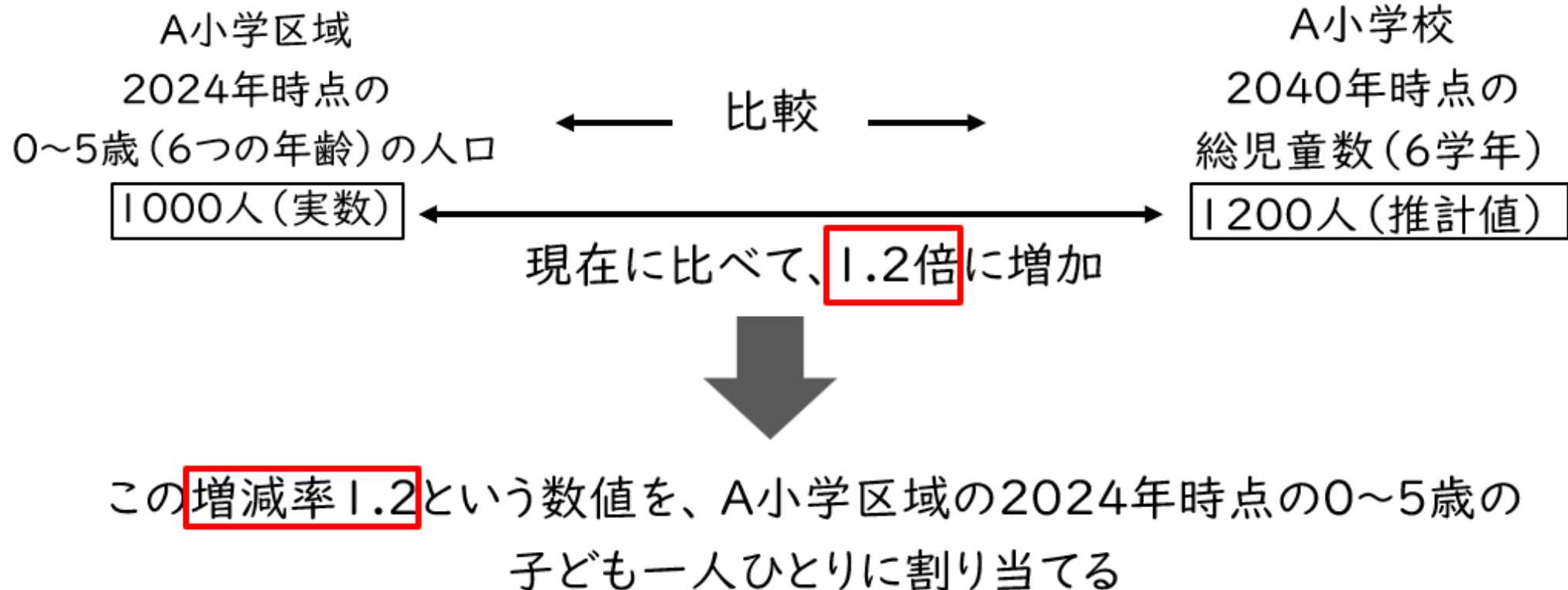


(3) 地図上でそれぞれの居住地に(2)により算出した数字を置き、通学区域を変更した場合をシミュレーションする

見直しにより想定される効果については、数値により明示する

具体的には・・・

例



増減率を乗じた人数を地図上の1人1人に割り当てたイメージ

A小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 1200人

B小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 800人

C小学校

2024年 → 2040年
1000人 → 1500人

新たなB小学校の
学区案



4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(1) 北部見直し案

- 過大規模が見込まれる六会小学校の児童数の削減
→ ・藤沢北消防署北側のエリアを湘南台小学区に変更
・湘南台高校周辺エリアを富士見台小学校区に変更
- 長後小学校と湘南台小学校間の慣例学区の廃止
- 六会小学校と天神小学校間の慣例学区の廃止

これにより六会小学校は、36学級→30学級となる見込み

4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(1)-2 学級数見込(北部)

学校名(凡例)	使用可能 教室数	2040年時点 児童数	2040年時点 学級数	参考 実施計画時 2040年時点 学級数
六会小学校(六)	37	936	30	36
長後小学校(長)	29	840	27	25
富士見台小学校(富)	24	760	24	20
湘南台小学校(湘)	29	857	27	24
亀井野小学校(亀)	27	762	25	25
天神小学校(天)	19	469	17	18

4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(2) 南部見直し案

- ・過大規模が見込まれる小学校の児童数の削減

今回の見直し案により

鵜沼小学校 36学級 → 28学級

辻堂小学校 32学級 → 26学級

鵜洋小学校 36学級 → 29学級

八松小学校 32学級 → 26学級

となり、

新林小学校は29学級、羽鳥小学校は28学級となる見込み

4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(2)-2 学級数見込(南部)

学校名(凡例)	使用可能教室数	2040年時点 児童数	2040年時点 学級数	参考 実施計画時 2040年時点 学級数
藤沢小学校(藤)	20	676	23	22
明治小学校(明)	30	886	28	28
鵜沼小学校(沼)	32	851	28	36
本町小学校(本)	26	778	26	24
村岡小学校(村)	20	737	24	24
辻堂小学校(辻)	39	814	26	32
鵜洋小学校(洋)	36	936	29	36
片瀬小学校(片)	28	820	26	22
大道小学校(道)	23	759	25	24
八松小学校(八)	25	797	26	32
高砂小学校(砂)	20	610	19	20
鵜南小学校(南)	21	629	20	18
浜見小学校(浜)	19	627	21	12
羽鳥小学校(羽)	31	890	28	24
新林小学校(新)	25	901	29	28
大鋸小学校(鋸)	27	707	23	18
高谷小学校(谷)	26	864	28	28

4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(2) 南部見直し案

今回の見直し案において通学区域の変更となるエリアは21か所
(通学区域案図における着色箇所)

主な変更箇所

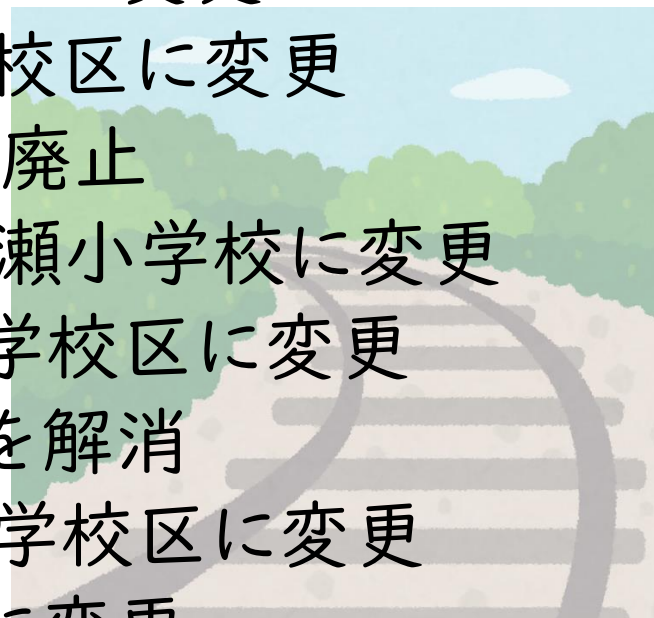
- 鵜沼小学校と本町小学校の慣例学区を本町小学校に変更
- 鵜沼小学校区となっているSST地区を辻堂小学校区に変更
- 鵜沼小学校区の江ノ電藤沢駅西側エリアを大道小学校区に変更
- 鵜沼小学校区の江ノ電石上駅北西エリアを新林小学校区に変更
- 鵜沼小学校と鵜沼小学校間の慣例学区を概ね鵜沼小学校区に変更
- 辻堂小学校と八松小学校間の慣例学区を八松小学校に変更

4. ワークショップに提示する通学区域見直し案について



(2)南部 主な変更箇所(続き)

- 辻堂小学校区の戸塚茅ヶ崎線浜見山交差点と東町交差点間の北側(辻堂元町3丁目及び4丁目)を高砂小学校区に変更
- 鵜洋小学校区の江ノ電線路以東を片瀬小学校区に変更
- 鵜南小学校区の鵜洋小学校への慣例学区を廃止
- 片瀬小学校と新林小学校間の慣例学区を片瀬小学校に変更
- 大道小学校区の藤沢橋東側エリアを藤沢小学校区に変更
- 羽鳥小学校区の辻堂駅北側エリアの飛び地を解消
- 八松小学校区のJR線路北側エリアを羽鳥小学校区に変更
- 高砂小学校区の南西エリアを浜見小学校区に変更



5.今後の開催見込みについて



■今年度（令和6年度）

12月 南（17日）北（24日）でワークショップを1回ずつ開催

1月24日 第3回通学区域検討委員会を開催

- ・取り組み内容については、2月又は3月の教育委員会定例会に報告予定

■来年度（令和7年度）

4月（第4週）通学区域検討委員会を開催予定

5月以降、ワークショップを南北で開催

